

国際標準化活動報告 IEC TC65プレナリ会議 2020 Web会議

IEC TC65国内委員会

1. はじめに

2020年3月30日～4月3日に開催された、TC65プレナリ会議（総会）について報告する。

当初、オランダ国内委員会の主催で、同国デルフト市での開催が予定されていたが、3月12日付でTC65セクレタリから、COVID-19の影響によりオランダでの会議開催が不可能となり、Web会議形式で開催することを決定した旨の連絡文書が発行された。

TC65プレナリ会議は、TC (Technical Committee) 65の担当分野である“工業用プロセス計測制御”に関わる国際標準開発に関する最高意思決定の会議体であり、1年半毎に開催され、各標準開発プロジェクトの進捗報告や組織運営上の課題解決などの協議と議決などが行われる。従来であれば、開催国主催のソーシャルイベントが設けられ、オートメーション産業に関する情報の共有を目的とし国際標準の重要性を認識する場として、IEC TC65 工業オートメーションフォーラムがIEC TC65 プレナリ会議に併設して開催されるのが習わしであるが、今回は、ソーシャルイベントの中止と、オートメーションフォーラムの延期が決定された。

今回は、表1に示すように、SC65AからSC65Eまでの4つのサブコミッティーのプレナリ会議後に、TC65全体のプレナリ会議がWeb会議形式で行われた。TC65国内委員会から、日本代表として国際エキスパート8名が事前登録に従って参加した。4月3日のTC65プレナリ会議では、全体では19か国より約70名のエキスパートが参加した。IECの中で先陣を切って開催されたWeb会議形式のプレナリ会議であったが、大きな混乱もなく開催を迎えることができ、活発な討議が行われた。写真1は本TC65プレナリ会議に参加した国際エキスパートによるコラージュである。また、会議中には、COVID-19に関する図1の呼びかけがあった。

以降に各会議のトピックや様子を紹介する。

表 1. TC65 プレナリ 会議（総会）日程

日程	時刻:CET	時刻:JST	開催会議
3月30日	12:00-16:00	19:00-23:00	SC65Aプレナリ会議
3月31日	12:00-16:00	19:00-23:00	SC65Bプレナリ会議
4月1日	12:00-16:00	19:00-23:00	SC65Cプレナリ会議
4月2日	12:00-16:00	19:00-23:00	SC65Eプレナリ会議
4月3日	11:00-17:00	18:00-24:00	TC65プレナリ会議



写真 1. プレナリ会議参加者顔写真のコラージュ

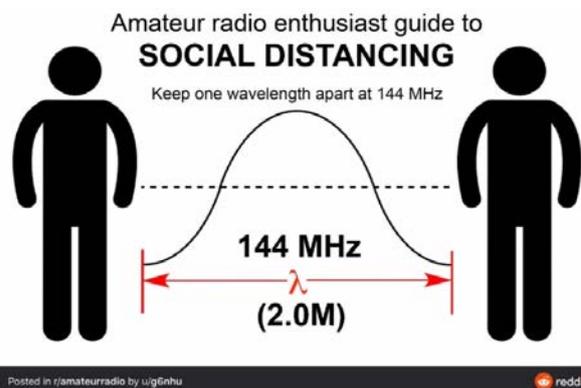


図 1. SC65E プレナリ会議中に提示された呼びかけ

2. TC65プレナリ会議

2.1. 概要

TC65はフランスが幹事国を務めており、議長国はドイツが務めている。TC65の組織体制は、4つのサブコミッティー（SC）で構成され、SC65A（システム一般）、SC65B（計測及び制御機器）、SC65C（工業用ネットワーク）、SC65E（企業システムにおける装置及び統合）が各技術領域での標準開発を担当している。これらのSCに属さない技術領域の標準化プロジェクトは、TC65直下に設置されている。現在、TC65直下には、11の作業グループ（WG）、4つの合同作業グループ（JWG）、そして1つのアドホックグループ（ahG、時限検討グループ）の計16のグループがある（図2）。投票権をもつP（Participating）メンバーは27か国あり、国際エキスパート数は398名が登録されている（プレナリ会議報告時点）。前回2018年10月のTC65釜山プレナリ会議からは55名が追加登録されたとの報告があり、傘下のSCに比較してTC65直下のプロジェクト数やエキスパート数が肥大化している状況にある。

TC65プレナリ会議は、最終日の4月3日に開催され、TC65直下の各標準開発プロジェクトの活動報告、各SCプレナリ会議の決議事項の報告と協議、関連標準化団体（リエゾン）の活動報告などが行われた。会議では各WGの国際主査（コンテナ）などからプロジェクトの進捗や今後の計画などの活動状況が報告された。各SCプレナリ会議の決議事項の報告の場面では、SCをまたがる領域の課題など、TC65全体としての組織運営上の課題解決に関する協議なども行われた。会議の最後には、各協議にもとづく解決案が提示され、事案毎に各国代表の承認の審議がなされ、決議事項として文書化され後日発行された。

現在のTC65の状況は、スマートマニュファクチャリングに関する標準開発の課題整理を行うahGによる検討段階から、その成果報告書に基づく作業実行部隊としての新しいWGの設置や、既存WGへの引継ぎなど、本格的な作業を始める体制整備の局面に移ってきた。一方で、デジタル革新を背景に新技術の急速な普及による他の標準化組織との合同作業グループ（JWG）やリエゾン関係の増加と既存WGとの業務範囲の整合性の調整や、上述のSCに属さないTC65直下WGの増加傾向など、組織運営上の舵取りや整理が難しくなってきた側面がある。こうした課題に対し、本プレナリ会議では、各SCやWG/JWGなどの作業範囲に関する調整の協議が活発に行われ、日本からも積極的に課題提起や意見発信をして貢献を示すことができた。以下に本プレナリ会議で報告されたTC65直下の主なWG/JWGなどの状況を紹介する。

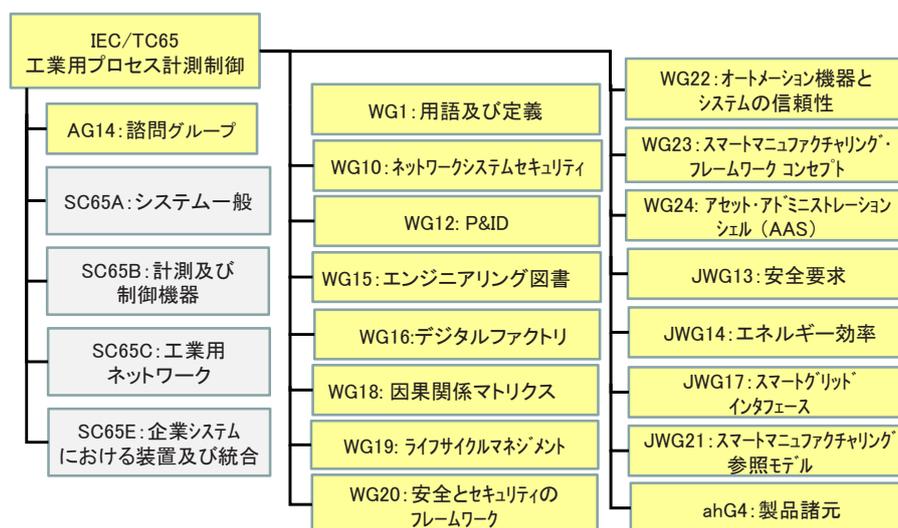


図2. TC65組織図 (2020年4月1日現在)

2.2. WG報告事項

2.2.1. ネットワークシステムセキュリティ：WG10

WG10は、制御システムのセキュリティ規格として広く認知されているIEC 62443シリーズを担当している。本WGは複数のプロジェクトが同時進行中である。さらにIECEEやISA99との連携活動も増えることから共同コンテナ体制とその候補者が提案され承認された。

2.2.2. スマートグリッドインタフェース：JWG17

JWG17は、IEC TC65/WG17とISO/IEC JTC1 SC41(Internet of Things: IoT)の産業オートメーション関連のプロジェクトが審議追加されてできた合同 WGである。本会議では、池山委員が共同コンベナの代理を務め、日本が主導した「工場とスマートグリッドのシステムインタフェース」に関する技術仕様：IEC TS 62872-1（2019年6月発行）の経過報告を行った。さらに、日本ではFEMS（Facility Energy Management Systems）の新業務項目提案（NP）を計画中との報告がなされた。

2.2.3. 安全とセキュリティのフレームワーク：WG20

WG20は、安全とセキュリティのフレームワークを担当しており、コンベナは出町委員が務めている。機能安全と制御セキュリティのフレームワークに関する技術レポートIEC TR 63069 Ed.1が2019年5月に発行されたことが報告され、さらに今後のプロジェクトの計画が示された。

2.2.4. スマートマニファクチャリング参照モデル：JWG21

JWG21は、スマートマニファクチャリングの統一参照モデルを作成することを目的とした、ISO TC184（オートメーションシステムと統合）とIEC TC65との合同WGである。URMSM（Unified Reference Model for Smart Manufacturing）の新業務項目提案（NP）の準備状況が報告された。

2.2.5. スマートマニファクチャリング・フレームワークとコンセプト：WG23

WG23、ahG3（Smart Manufacturing Framework and System Architecture）の後継組織として設立された。スマートマニファクチャリングに関するTC65直下や各SC内に現存するWG/JWGの活動の重複やギャップのコーディネーションを目的としている。WG23内のタスクフォースが作成予定の7件の技術レポートのうち3件（用語と定義、ユースケース、サイバーセキュリティの要件）が審議中であることが報告された。

2.2.6. 製品諸元：ahG4

ahG4は、IECの共通辞書（CDD Common Data Dictionary）をTC65としてどのように扱うかを検討している。前回のTC65釜山プレナリ会議での解決事項への対応として、「1：TC65内でIEC CDDを扱う恒久的なグループを立上げる」、「2：TC65が担当する規格のIEC CDDコンテンツの提供とメンテナンスは当該規格のWGなどが担当する」の2点の提案が示されたが合意にいたらず、継続審議となった。

2.3. 決議事項

本TC65プレナリ会議は11件の議決事項があった。以下に特筆する事項を挙げる。

- －ahG3（Smart Manufacturing Framework and System Architecture）を解散することが議決された。
ahG3は、後継として設立されたWG23のタイトルの変更と活動スコープ及び成果物の明確化を行い、その役目を終えて解散することが承認された。
- －TC65/WG1(Terms and Definitions)の追加の業務として、SC65A/ahG17(Terminology)の作業を引き継ぐことが議決された。本件は、SC65Aプレナリ会議の決議事項としてTC65に要請されたものである。

3. SC65Aプレナリ会議

3.1. 概要

SC65Aは、システム・アスペクト（System aspects）という名称のSCで、電磁両立性（EMC）や機能安全など機器の種類に依存しない生産システム共通の事項（システム一般）を担当している。英国が幹事国を務めており、前回プレナリの時から1か国増えた31か国がPメンバーとして参加している。これまで米国からの委員が議長を務めていたが、議長の退任に伴い国際投票が行われていた。今回のプレナリ直後にこの投票結果が発表され、日本からの出町委員が後任の議長に選出された。SC65Aには、7つのWGと1つのプロジェクトチーム（PT）、4つのメンテナンスチーム（MT）、1つのahGがある（図3）。以下にSC65Aプレナリ会議での主要なWGなどの状況を報告する。

3.2. WG報告事項

3.2.1. 電磁両立性要求(EMC)：WG4

WG4は、IEC/TC77が担当するEMCの基本規格であるIEC 61000シリーズをもとに、産業用のEMC要求事項を規定するIEC 61326シリーズの開発・維持を行っている。IEC 61326シリーズには、機能安全に関わるEMC要件を規定するパートも含まれる。IEC 61326シリーズは、現在Ed.3への改訂作業中で、間もなく最終

国際規格案（FDIS）が完成する見込み。IEC/TC65が担当する医療機器のEMC要件をIEC 61326に含めるために、WG4のスコープの見直しの必要性が議論された。

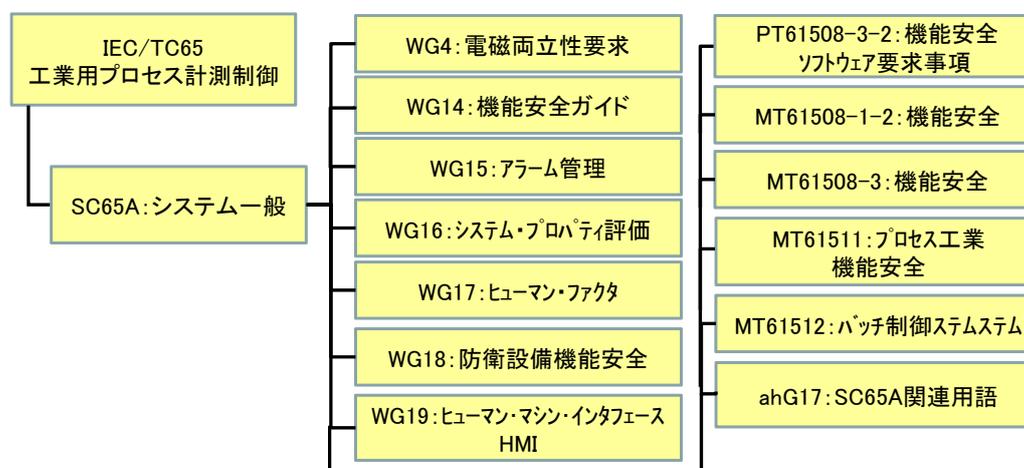


図 3. SC65A 組織図 (2020年4月1日現在)

3.2.2. 機能安全：MT61508、PT61508-3-2、WG14、MT61511、WG18、WG17

機能安全については、複数のWGとMTが分担して基本規格であるIEC 61508シリーズの開発・維持を行っている。基本規格は、複数のTCが担当する複数の産業領域に適用される基本的で共通的な要求事項を規定する規格で、安全諮問委員会（ACOS）のIEC Guide 104によってその運用管理が規定されている。IEC 61508は、機能安全の基本規格として、自動車産業、工作機械、鉄道などの多くのセクター規格から参照されるようになってきている。IEC 61508シリーズは、現在Ed.3への改訂の準備を進めているところで、2020年末に正式な改訂プロジェクトが開始される予定。

SC65Aでは、いくつかのセクター規格の開発も行っており、プロセス産業向けのIEC 61511シリーズがあるほか、防衛産業向けの新しいセクター規格であるIEC 63187の開発がWG18にて開始されている。

今回の会議では、IECEEによる機能安全認証やAIと機能安全の関わり、複数のセクター規格の整合性確保などについての議論がなされた。IEC 61508適用のガイドラインを示したIEC 61508-0は、2005年に初版が発行された後、担当のWG14が休止状態であったが、IEC 61508 Ed.2への対応のための改訂とFAQの見直しのため再活性化することが推奨された。

また、機能安全のヒューマン・ファクタに関するIEC TR 62879は、プロジェクト開始から7年が経過し、進捗がないことから開発が中断された。

3.2.3. アラーム管理：WG15

WG15は、アラーム管理のための規格であるIEC 62682を担当しており、この改訂作業が間もなく開始される。IEC 62682は、ISA（The International Society of Automation）のISA18.2仕様をもとに、アラームを「緊急のアクションを必要とするオペレータへの通知」と定義してその扱いの要求事項を規定している。昨年よりEd.2への改訂作業が開始されており、現在、委員会原案（CD）への国際コメントの審議中である。

3.2.4. システム・プロパティ評価：WG16

2016年にIEC 61069シリーズをEd.2とする改訂が行われた後、WG16は休止状態であり、次回の規格改訂期限として定める安定期日（Stability date：SD）が2023年に延長されたが、コンベナの引退に伴い、近々後任を推薦することが報告された。

3.2.5. ヒューマン・マシン・インタフェース(HMI)：WG19

会議の直前に新業務項目提案（NP）が可決され、プロセス・オートメーションにおけるHMIの要件を規定するIEC 63303の開発が、ISA101仕様をベースとして開始された。アラーム管理やSC65E/WG10が担当するインテリジェント・デバイス管理との関連が深く、重要なプロジェクトとなる可能性がある。

3.2.6. バッチ制御システム：MT61512

IEC 61512シリーズは、バッチ制御について規定したISA88仕様をもとに2009年までに開発されたが、昨

年よりEd.2への改訂作業が開始された。

3.2.7. SC65A関連用語：ahG17

SC65A担当規格の用語の統一を検討するために設置されたが、活動が開始されておらず、他の用語プロジェクトとの調整も必要であることから、ahG17は解散し、TC65全体の用語を担当しているTC65/WG1での実行を検討してもらうよう要請することとなった。

3.3. リエゾン関連

既存のリエゾンの大幅な見直しが行われ、TC44、SC54A、ISO/TC184、およびISO/TC184/SC5とのリエゾン関係を解消することが決定された。結果として、以下のIEC組織とのリエゾンによる連携が継続される。

- TC31：Equipment for explosive atmospheres
- TC56：Dependability
- SC65C：Industrial networks
- TC66：Safety of measuring, control and laboratory equipment
- TC77：Electromagnetic compatibility

また、IEC以外のリエゾン連携先として、IFAC、ISA84、ISA18、SINTEF PDS FORUMが維持されている。

4. SC65Bプレナリ会議

4.1. 概要

SC65Bは、計測及び制御機器（Measurement and control devices）という名称のSCで、工業用プロセス計測制御、オートメーション分野で使用される装置、分析計、アクチュエータ、プログラマブル論理コントローラなどのデバイス（ハードウェアおよびソフトウェア）について、互換性、性能評価、機能などの標準化を担当している。米国が幹事国を務めており、24か国がPメンバーとして参加している。SC65Bには、7つのWGと4つのPTがある（図4）。以下にSC65Bプレナリ会議での主要なWGなどの状況を報告する。

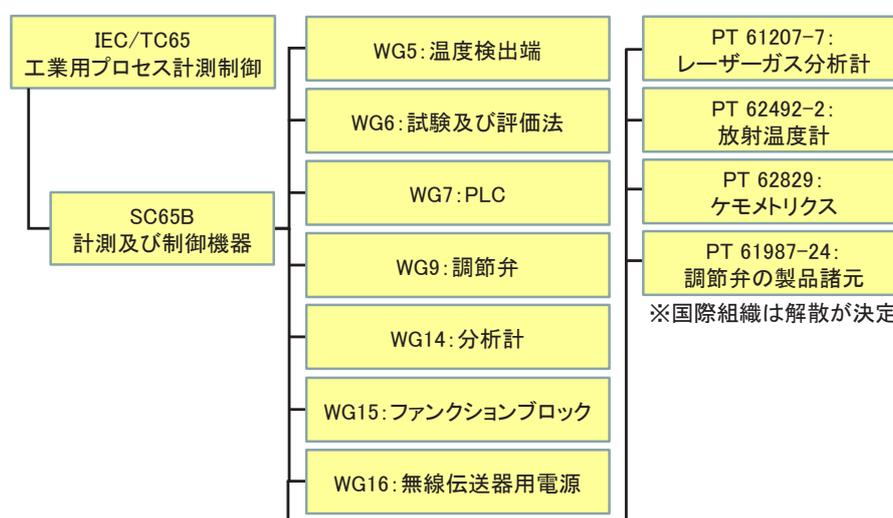


図4. SC65B組織図(2020年4月1日現在)

4.2. WG報告事項

4.2.1. 温度検出端：WG5

WG5は、温度検出端を担当しており、国際主査（コンテナ）を後藤昌彦先生（カナダ国立研究機関）が務められ、国内ではJEMIMA温度計測委員会が中心となって審議を行っている。IEC 60584-3（熱電対用補償導線）のCDVが可決された。また、IEC 60751（測温抵抗体）の投票用委員会原案（CDV）回付が遅れており、スケジュールを変更することとなった。

4.2.2. 試験及び評価法：WG6

日本主導で規格化を進めてきたIEC 62828-5（流量計評価方法、JEMIMA産業計測機器・システム委員会内に流量計タスクフォースを設立して対応）は、FDISへ進んだと報告があった。また、IEC 60770シリーズの廃止について審議があり、日本よりJISの参照元となっているため反対を表明したが、全内容がIEC 62828シリーズに含まれているとのことで主張は退けられ廃案が可決された。プロセス制御用アナログ信号調節計の試験方法に関する規格IEC 60546-1/-2について、廃止か、SD延期かの審議を行い、SDを2026年に延期することとなった。工業プロセス制御システム評価用適応制御器分類IEC 61297についても廃止かSD延期かの審議を行い、SDを2026年に延期することとなった。

4.2.3. PLC：WG7

Rene Simon氏へのコンペナの交代が提案され承認された。参加者より長年貢献してきたRobert Kretschmann氏に感謝の意が示された。

4.2.4. 調節弁：WG9

IEC 60534シリーズの進捗報告が行われた。そこで、Part 2-1, 2-3, 2-4, 8-3のSDを2022年へ延期する要望が示され、承認された。

4.2.5. 分析計：WG14

前回プレナリ以降にコンペナに就任したArno van Adrichem氏から報告があった。2018年秋、2019年春、秋に会議を開催して、開発中の文書審議を行っている。2020年春の会議はキャンセルとなった。

4.2.6. ファンクションブロック：WG15

IEC 61499-5で検討している内容を、既存のPart 1, 2, 4の次のメンテナンス時に入れ込むことを目指して進めている。本年5月までにPart 5の作業をキャンセルして、Part 1, 2, 4のメンテナンスの提案を行う予定。

4.2.7. 調節弁の製品諸元：PT 61987-24

本PTは、前回プレナリにてJWG17を解散したことを受けて活動していたが、IEC 61987-24-1/-2/-3は、SC65E/WG2とSC3D/MT61987に引き継がれることが確認され、PT61987-24は解散することが決議された。

4.3. その他

カナダのIan Verhappen氏より、TC65 Collaboration Tool Best Practiceとして、Committee Good Working Practice (GWP)という標準開発業務のガイド文書の改訂状況が紹介された。

5. SC65Cプレナリ会議

5.1. 概要

SC65Cは、工業用ネットワークという名称のSCで、有線及び無線のフィールド通信ネットワークを担当している。フランスが幹事国を務めており、前回プレナリの時から1か国増えた22か国がPメンバーとして参加している。SC65Cには、7つのWGと2つのPTがある（図5）。本SC65Cプレナリ会議のトピックとして産業用TSN(Time Sensitive Network)プロファイルの審議体制の見直しが挙げられる。現在SC65Cは、産業用TSNプロファイルに関し、IEEEと合同で規格開発、IECEEと共同で認証制度の検討などが行われているが、それらを審議する体制が不明確、かつ本来実施すべき手順が遂行されず混乱が生じていた。本会議で日本から審議組織の統一と作業範囲の明確化を申し入れ、PT 60802をWGとして審議組織を統一することが決定され正常化が図られた（のちに名称はWG18：産業用TSNと決定）。

5.2. WG報告事項

5.2.1. フィールドバス：WG9

フィールドバス規格群IEC 61784-1,2とIEC 61158シリーズの新しい改定サイクルが開始することが報告された。2023年の発行予定。今回の改定で規格の構成を共通部と各Technology provider固有のパートに分けることになった。

5.2.2. フィールドバス機能安全：WG12

安全ネットワーク規格群IEC 61784-3、IEC 61784-3-XのEd.4のCDVを回付実施し、2021年発行予定。またEd.5に組み込む新規事項をIEC 61784-3 Amd.1として開発することとなった。現在CD発行準備中（7月実

施予定)、2022年発行予定。IO-Link Safety のNP提案を実施し承認されたことが報告された。本NPはIEC 61139-2とし、新規にプロジェクトチームを構成しPT 61139-2として活動を行うことが今回決定された(後述)。



図 5. SC65C 組織図 (2020年4月1日現在)

5.2.3. 高可用性ネットワーク：WG15

IEC 62439-2 (Media Redundancy Protocol MRP) ,3 (パラレル冗長化プロトコルPRP、高可用シームレス冗長性HSR) 改定の開発状況について、大きな遅れはないと説明 (2021発行)。また高可用性ネットワーク規格群IEC 62439シリーズのSDを 2025年とすることが承認された。

5.2.4. 無線共存：WG17

IEC 62657-2 (無線共存) のメンテナンス開始の計画が報告された。改訂内容は、IEC CDD (CR[Change Request]00042) の更新と、IEC 62657-3, -4との用語の一貫性を図ることが含まれる。メンテナンスプロジェクト番号は、IEC 62657-2 Ed.2/Amd.2から、IEC 62657-2 Ed.3に変更するとの報告があった。

5.2.5. 産業用TSNプロファイル：PT 60802

IECと合同に進めている産業用TSN規格IEC/IEEE 60802の開発について次の報告があった。

- ・IEEEでの審議ペースとの乖離があり、投票期間などを考えると同期が難しく、IECで行うCDを間引くことで対応することが承認された。
- ・CDにおいて、多くのコメントが寄せられて解決に時間を要したことから、国際規格発行のスケジュールを2023年にスケジュールを変更することが承認された。
- ・産業用TSNの認証について、IECEE CMC 内にWG “Services for IEC/IEEE 60802” が設立されることが説明された。IECEE CMCとIEC/SMBの決定により、同WGは認証の方法などについて決定する。試験仕様については、SC65Cにて開発する。

日本より、TSN関連の審議 (IEC/IEEE 60802の開発、認証試験仕様の開発) を本グループに集約してWG (WG18：産業用TSNと後に決定) とすることを提案し、承認された。また、同コンペナを現PLであるLudwig Winkel氏が務めることが承認された。

5.2.6. シングルドロップデジタル通信(SDCI: Single-drop Digital Communication Interface)：PT 61139-2

IO-Link Safety (IO-Linkは商標の為、一般名称としてSDCIと称する。知名度を考えここではIO-Linkと記載) のNP提案承認を受け、IEC 61139-2として開発を行う予定などが示された。5.2.3.項にある通り当初WG12安全ネットワークを審議組織としてNP提案されたが、IO-Linkは機器同士の1対1通信を想定したプロトコルであり、フィールドネットワーク、フィールドバスには当たらないとして審議組織を独立させることとなり本会議で承認された。

5.2.7. 工業用ケーブル：JWG10

IEC 61918 Amd.1は、現在1-Pairネットワークのガイドラインを組み込む作業を2017年より行っており2022年に発行予定。IEC 61918本体については、4月にレビュー報告 (RR) を実施し、2021年から改定サイクルを開始することが本会議にて承認された。IEC 61784-5シリーズについては、2021年から改定サイクルが開始することとなった。本改定ではIEC 61784-5-8 (CC-Link) へ新しいCPF (Communication

Profile Family) を追加し、IEC 61784-5-22 (AUTBUS) がNPの形で追加等がおこなわれる。2023年国際規格 (IS) 発行予定でCDステージを省略とすることが本会議にて承認された。

5.3. 決議事項

各WG報告に記載の決議事項以外としては、ネットワークの時刻同期のプロトコル規格であるIEEE 1588-2019について、同内容を一切変更せず、IEC 61588:2009を改定する形で新しいIEC 61588として採用することが承認された。

6. SC65Eプレナリ会議

6.1. 概要

SC65Eは、“Devices and integration in enterprise systems” という名称のSCで、エンタープライズシステム（企業の業務系情報システム）における産業オートメーションシステムおよびデバイスとの統合を担当している。米国が幹事国を務めており、21か国がPメンバーとして参加している。SC65Eには、前回より3つ増えた11のWGと2つのJWG、1つのahGがある（図6）。本会議では、それぞれのプロジェクトの状況が報告された上で議決され、2つのWGと1つのahGの解散が決定した。

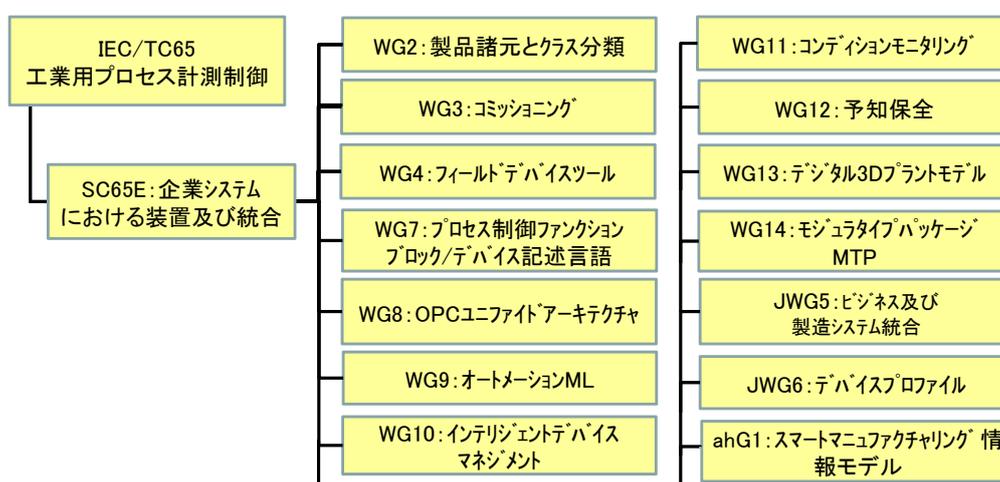


図 6. SC65E 組織図 (2020年4月1日現在)

6.2. WG報告事項

6.2.1. 製品諸元とクラス分類：WG2

IEC 61987としてプロセス制御装置カタログにおけるデータ構造規格を開発している同WGより、現在取り組んでいるinfrastructure device (Part 31)及びI/O modules (Part 32)は、多方面との調整が必要となったことから、スケジュール変更が決議承認された。関連リエゾンとしてeCl@ssからの報告もあった。

6.2.2. コミッショニング(Commissioning)：WG3

長らく目立った活動がなかった同WGにおいて、2つの既存規格(IEC 62381, 62382)の改訂入りが決議承認された。

6.2.3. フィールド機器関係 FDT(Field Device Tool)：WG4, IDM(Intelligent Device Management)：WG10

FDTでは、IEC 62453の4つのパートの改訂入りを承認。IDMでは、コンベナよりIEC TR 63082-1 (Concepts and Terminology)がこの2月に発行され、またIEC 63082-2 (Normative Requirements) のNPがこの1月に承認されたとの報告あり。

6.2.4. プロセス制御ファンクションブロック/デバイス記述言語：WG7

コンベナより報告後、IEC 61804の5つのパートのSDの調整等が行われた。

6.2.5. システム規格関係：OPCユニファイドアーキテクチャ：WG8, オートメーションML：WG9

両WG共コンベナより報告あり、WG8では、IEC 62541の規格原稿をIEC中央事務局 (CO) に提供する際の図のフォーマットの議論があった。

6.2.6. コンディションモニタリング (Conditioning Monitoring) : WG11

コンペナからの報告はなく、セクレタリより内容を新規のWG12に引継いだ上、本WGを解散する旨の決議案の提示あり。これに対し、日本は、議決内容からWG12との関係の記述を削除して単に本WGを解散させることだけの決議内容とする提案を行った。これが承認されWG11の解散が決定した。

6.2.7. 新規開始WG 予知保全 : WG12, モジュラタイプパッケージ (Modular Type Package : MTP) : WG14

いずれも最近NPが通って活動を開始したプロジェクトで、いずれも今回のプレナリに併設のWGでキックオフ会議を開催する予定だったが、COVID-19で開催できずキックオフ会議は別設定となった。

6.2.8. ビジネス及び製造システム統合 : JWG5

IEC 62264の元となっているISA95の改訂に伴うIEC 62264の3つのパート(Part 2,4,5)の改訂入りが承認された。リエゾン先のISA95の報告とともに、IEC 62264-8 Information Exchange Profilesが、2020年にNP提案されるとの予告があった。

6.2.9. デバイスプロファイル(Device Profile) : JWG6

コンペナは、当初そのつもりは無かったようだが、15年間活動がないWGは解散すべきという意見が出てその場で議決、解散することが決定された。

6.2.10. リエゾン報告 : IEC SC3D

IECのオンラインデータ辞書(CDD: Common Data Dictionary)を担当する同SCの報告があった。

6.3. 決議事項

上記のWGのスケジュール関係の他に、前回の釜山プレナリ会議で最終報告がなされており活動が終了していたahG1 (Smart Manufacturing Information Model)の解散、リエゾンの整理、不活発参加国対策等を決議し、終了した。

7. まとめ

3月30～4月3日に開催されたIEC TC65プレナリ会議の参加報告および審議内容を紹介した。今回は、COVID-19の影響により、すべての国際エキスパートが、インターネットを介して参加する初めてのWeb会議形式でのプレナリ会議を経験した。参加したTC65国内委員会の国際エキスパートにとっては時差による会議時間帯の違いや対面会議とは異なるコミュニケーションの難しさもある中で、議事の要所で課題の提起や提案を行うなど日本のプレゼンスの維持向上を示すことができた。一方で、プレナリ会議中や場外でのTC65/各SC議長やセクレタリ、及び各国エキスパートとの対面での情報交換や人的ネットワークを広げる貴重な機会が得られなかったことは残念である。

TC65国内委員会にとっては、本プレナリ会議は、第9活動期の総決算であり、成果と課題を再確認する場として、そして次期活動期の課題や注力分野の設定の機会として重要な意味を持つ。本プレナリ会議の議事を踏まえ、国内委員会活動のさらなる活性化と国際活動への積極的な参画を進めてゆく。

執筆：

IEC TC65国内委員会

松本高治、長谷川敏、出町公二、林尚典、馬場丈典、小倉信之（敬称略）